

224. 針江浜遺跡発掘調査報告(2)

—針江浜水泳場部分の調査—

15. 板状の木製品。断面形は14に近いが左右の厚みの差はほとんど無い。端部が腐食しているため全体形は不明であるが、少なくとも図上下端は本来の形状を保っていると考えられる。針葉樹。
16. 板樹の木製品。ほぼ原型を保っていると考えられる。針葉樹。
17. 板状の木製品。図下端の一部を欠損する他はほぼ原型を保っていると考えられる。針葉樹。
18. 板状の木製品。全体形は不明。針葉樹。
(第2トレンチ)
19. 棒状の木製品。図上下端を欠損する。断面形はほぼ真円に近く、丁寧に成形される。針葉樹。
20. 棒状の木製品。断面形は円形に近い。図下方はやや厚みを減ずるが、これが本来形なのか腐食によるものなのかは特定できない。針葉樹。
21. 棒状の木製品。断面形は楕円形に近い。図上下端を欠損する。針葉樹。
22. 棒状の木製品。断面形はほぼ円形に近い。図上下端を欠損する。針葉樹。
23. 板状材。図右上に抉りがある。上端は欠損していると考えられる。下端は、何度か刃物をいれ成形する。もっと大きな材から切り離れたものであろう。針葉樹。
24. 板状木製品。図上端を欠損。図下端に方形の小孔を穿つ。針葉樹。
25. 脚付き盤。全端部を欠損するが、本来は長方形の一对の脚が平行して付く盤であると考えられる。全て一材から削り出す。針葉樹。
26. 耳付き蓋。中央につまみ状の突起がつく。さらに両端に小円孔の穿たれた半円状の突起が付く。口縁が垂下することから、身となる容器の口縁外周に接する外蓋であろう。また、円孔のある突起があることから、紐状のもので身と蓋を固定していた可能性も考えられる。何らかの密封性を必要とする用途に供されたものであろうか。全て一材から削り出す。針葉樹。
27. 桶?。横断面は弧状を呈する。良質の針葉樹柾目

材を削りだして成形する。左右両端は原型を保っていると考えられることから、同様の形状の材を組み合わせて円筒を形成し、底板を入れた桶状の容器の一部ではないかと考えている。脚となる部分の外側には等間隔で三角形の削り込みが巡る。

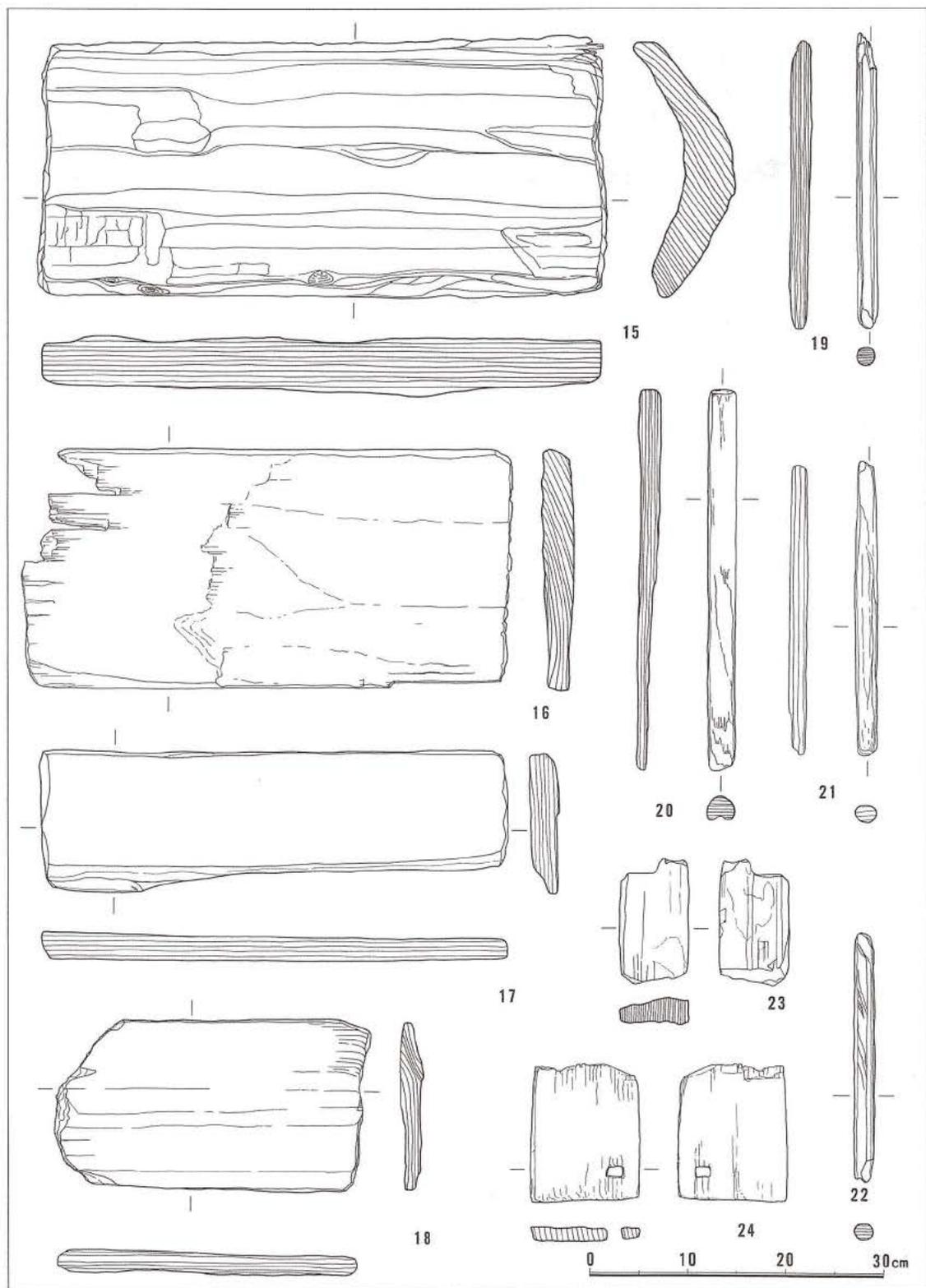
28. 槽。全端部が欠損しているため全体形は不明であるが、大型の方形の槽の一部と考えられる。針葉樹。
29. 梯子。上下端を欠損する。また全体に腐食の進行が著しい。針葉樹。
30. 不明木製品。断面台形の厚板の中央を削り取ったもの。図上部背面が欠損。針葉樹。
31. 棒状木製品。やや湾曲する木製品。断面の形状は台形。図上下端を欠損する。針葉樹。
32. 不明木製品。板材の両端に角孔を穿つ。図下端は欠損する。針葉樹。
33. 不明木製品。半面が欠損する。方形の板材に把手状の突起がつく中央に方形の削り込みが認められる。全て一材から削り出す。全体形は不明であるが、中央の削り込みが雑であること、外周の仕上げがなされていないことなどから、ハンドスコップ状の木製品の未製品ではないかと考えられる。針葉樹。
34. 不明木製品。片面及び図上端を欠損する。図下端を薄く削り込む。篋状の木製品の一部か。広葉樹。
35. 不明木製品。図下端を欠損する。上端に突起を持つことから何らかの器物の把手と考えられる。針葉樹。
36. 琴部材。片面を欠損する・外周に添って11個の小円孔が穿たれている。針葉樹。

5. 遺物の年代

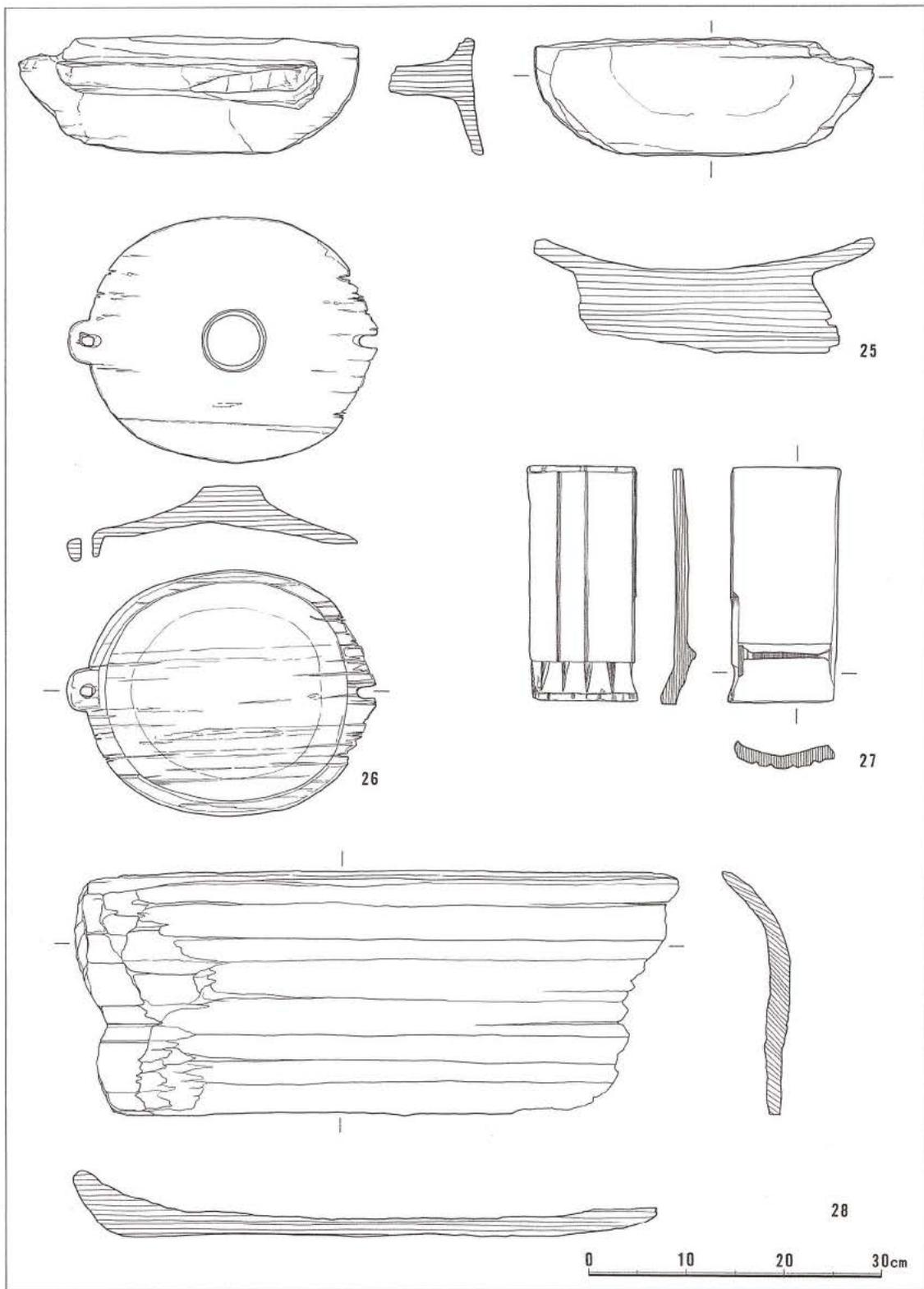
包含層1出土の木製品に関しては共伴する土器類が全く無いことから遺物の年代を明確化するには至らない。

今回最も多くの遺物の出土を見た包含層2からは、図示し得ない土器の細片が少量出土している。これらの土器の中には、内外面に丁寧にヘラミガキ調整を施した口縁端部を垂下させるタイプの器台の破片が含まれることから、これらの木製品の年代についても、大まかには土器の示す年代、すなわち弥生時代末から古墳時代初期にかけてのものと考えている。

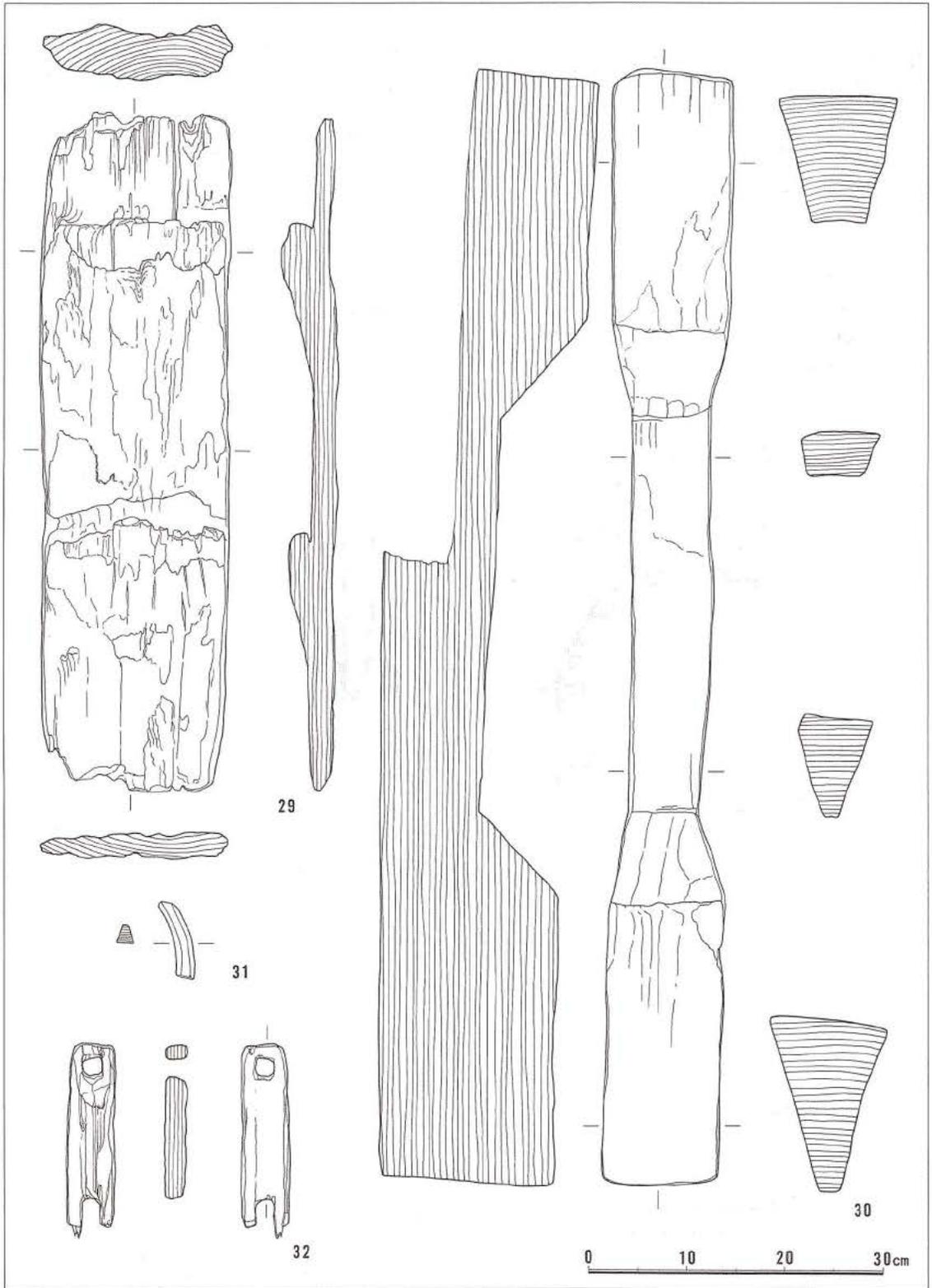
今回の発掘調査では遺構は全く検出されず、先に触れたように出土遺物は全て自然状態で堆積したと考え



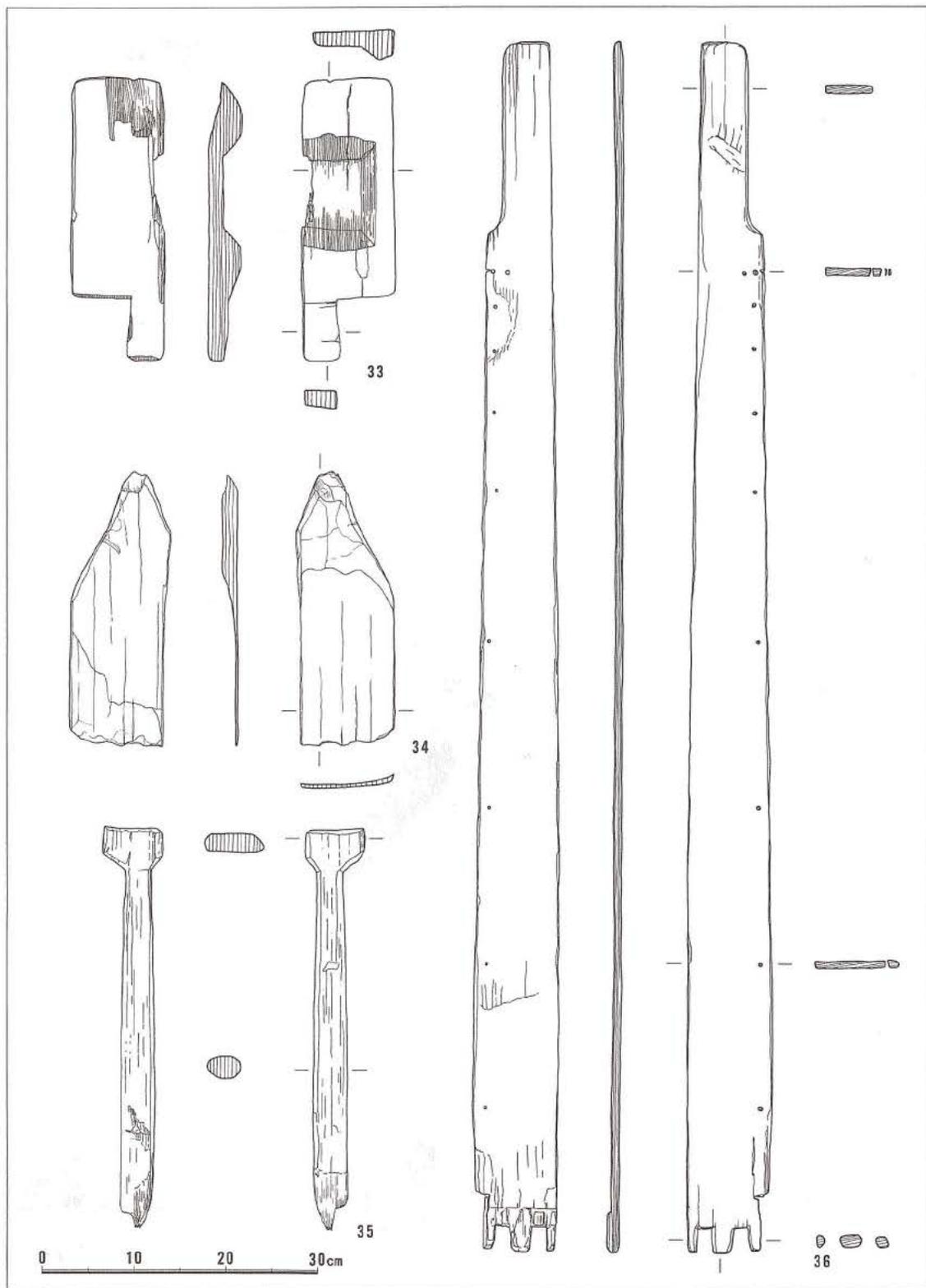
第 6 图 出土遺物実測図(3)



第7図 出土遺物実測図(4)



第 8 图 出土遺物実測図(5)



第9图 出土遗物实测图(6)

られることから、これらの木製品は内陸の集落から流出し、当時現在よりももっと沖合いにあったと推定される旧浜堤の内側に発達した内湖の底に静かに堆積したものであろう。

今回調査を実施した地点の周辺には、これとほぼ同じ時期の遺物を出土する集落跡としては、針江北遺跡、針江川北遺跡、吉武城遺跡、旭遺跡等がある。また、明確な遺構は検出されなかったものの、これに近い時期の遺物を大量に出土した森浜遺跡も、ここの北に近接する。

二次堆積に依って得られた遺物のみで歴史を語るのは余りに危険ではあるが、通常の状態では検出されない植物質の遺物が良好な状態で出土したことはそれなりに評価して良いであろう。

(大沼 芳幸)

参考文献及び資料。

横田洋三 「古代人の生活と水」(『湖の国の歴史を読む』新人物往来社 1992)

横田洋三 「考古資料から見た琵琶湖湖岸の地形的歴史環境」(『琵琶湖の歴史環境』琵琶湖博物館開設準備室研究調査報告2 琵琶湖博物館開設準備

室 1994)

大沼芳幸 「湖の底に眠る遺跡群」(『生きるNo.11』1994)

針江浜遺跡

『文化財調査出土遺物仮収納保管業務発掘調査概要』滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 1987～90

『一般国道161号(高島バイパス)建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書』Ⅱ～Ⅴ 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 1990～93

『森浜遺跡発掘調査報告書』 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 1978



第10図 調査遺跡および周辺跡(弥生時代)